

☆主の公現(1月8日)の聖書朗読 ☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (イザヤの預言 60章 1-6節)

エルサレムよ、起きよ、光を放て。

あなたを照らす光は昇り、主の栄光はあなたの上に輝く。

見よ、闇は地を覆い、暗黒が国々を包んでいる。

しかし、あなたの上には主が輝き出で主の栄光があなたの上に現れる。

国々はあなたを照らす光に向かい王たちは射出するその輝きに向かって歩む。

目を上げて、見渡すがよい。みな集い、あなたのもとに来る。

息子たちは遠くから、娘たちは抱かれて、進んで来る。

そのとき、あなたは恐れつつも喜びに輝き、おののきつつも心は晴れやかになる。

海からの宝があなたに送られ、国々の富はあなたのもとに集まる。

らくだの大群、ミディアンとエファの若いらくだがあなたのもとに押し寄せる。

シェバの人々は皆、黄金と乳香を携えて来る。

こうして、主の栄誉が宣べ伝えられる。

第二朗読 (使徒パウロのエフェソの教会への手紙 3章 2、3b、5-6節)

皆さん、あなたがたのために神がわたしに恵みをお与えになった次第について、あなたがたは聞いたにちがいありません。秘められた計画が啓示によってわたしに知らされました。この計画は、キリスト以前の時代には人の子らに知らされていませんでしたが、今や“霊”によって、キリストの聖なる使徒たちや預言者たちに啓示されました。すなわち、異邦人が福音によってキリスト・イエスにおいて、約束されたものをわたしたちと一緒に受け継ぐ者、同じ体に属する者、同じ約束にあずかる者となるということです。

福音朗読（マタイによる福音書 2章 1-12節）

イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」

これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問いただした。彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。

『ユダの地、ベツレヘムよ、お前はユダの指導者たちの中で決していちばん小さいものではない。お前から指導者が現れ、わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』」

そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。

彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。

ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

先週の日曜日は正月元旦で神の母聖マリアを祝って新年をスタートいたしました。重苦しい空気が漂っている今日この頃ですが、主のみ手にお任せして私たちのすべきことに邁進しましょう。私たちの信じる神は希望の神です。私たちを救うことに力を注がれる「慈しみの神」なのです。ですからその希望の神がないかのように、いたずらに嘆き、失望しないようにしましょう。

今日の主日は幼子イエスのところに東の国からの占星術の学者たちがやってきて、礼拝したことを記念する「公現の主日」です。すなわちイエスが当時のイスラエルの人たちだけでなく異邦人と言われていたその他多くの人々の前に姿を現されて、救いは単にイスラエルの民に限られず主を救い主と信じる人々皆に開かれていることを示されたのです。私達も東の国の人間です。世界中の人々が救い主イエスを一刻も早く訪れますように祈りましょう。

第一朗読（イザヤの預言 60章 1-6節）

このイザヤの預言を読むとき、マタイの福音が思い浮かびます。当然マタイはそのことを意識していたでしょう。イザヤはこの預言を通して失望の中にあるイスラエルの民を励ましています。主は人々を照らす光、人々の上に輝く光です。その光に向かって人々は晴れやかな心で押し寄せると。この預言はその数世紀後に実現するのです。神の計画は壮大ですね。

第二朗読（使徒パウロのエフェソの教会への手紙 3章 2、3b、5-6節）

パウロはこの手紙で「異邦人が福音によってキリスト・イエスにおいて、約束されたものを私達と一緒に受け継ぐ」とはっきり宣言しています。パウロは異邦人の使徒とも称されます。パウロはそのためにこそ主イエスから召し出されたのだとも言っています。異邦人の世界に主イエスの福音を伝えるという大きな使命にきっと彼は燃えていたことでしょう。私達もその熱意に見習いたいと思います。

福音朗読（マタイによる福音書 2章 1-12節）

今日の福音はイエスの誕生の次第をルカ福音とは違った角度から描いています。イエスが生まれたのはユダヤの地をヘロデという王様が治めていた時代にベツレヘムというところで生まれたと書かれています。そしてそのころ東の方から占星術の学者たちがやってきたのです。ヘロデにとっ

ではびっくりするような話を持って来たのです。「ユダヤの王として生まれた方はどこにおられますか」。この世の支配者は自分の地位を保つために日々滑稽なほど大変な苦勞をしているわけですから、占星術の学者たちの言葉は到底受け入れられるものではなかったのです。現代でもその様子は一つも変わりません。そしてそのお生まれになった王は幼子だったのです。神はこのように人間をほんろうされます。占星術の学者たちは星に導かれてベツレヘムに行き、そこでマリアと共にいる幼子を見て、ひれ伏して拝み贈り物を捧げたのです。占星術の学者たちはどうしてその幼子が王であるのがわかったのでしょうか。そのことについてマタイは何も記していませんが、星に導かれて拝みに来た占星術の学者たちですから、動いていた星が止まったところに幼子がいたことから、きっとこの幼子が探していた王であると確信したのでしょう。神の導きを信じることから、神に至るのです。

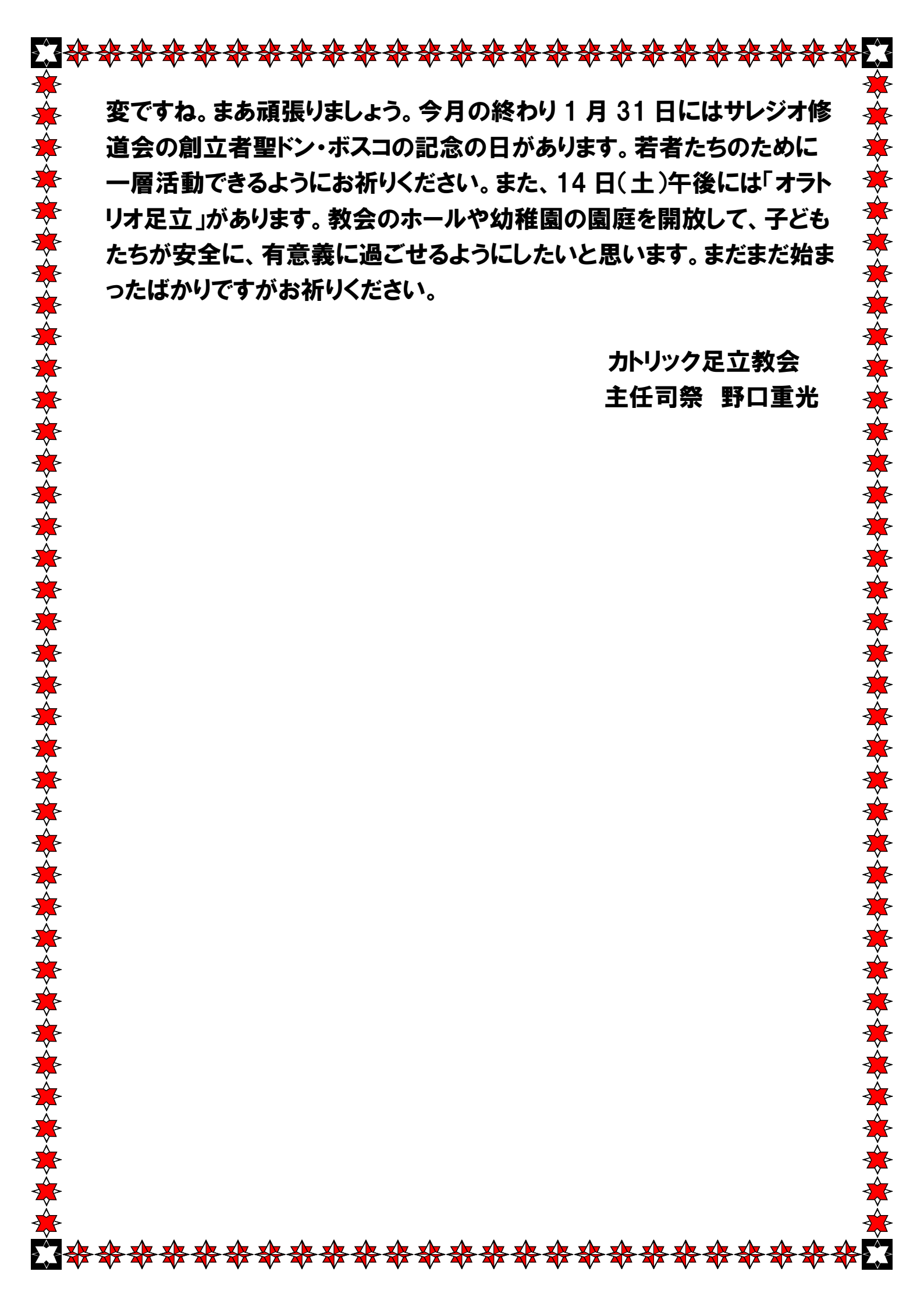
今日の福音の個所は神の計らいを考えるに多くの示唆を与えてくれます。



聖高原[長野:麻績村]の冬(2015)

P.S.

年末年始も終わりいよいよ教会の活動も始まります。新しいミサの式次第はいかがですか。私も間違えないようにしていますが、長年覚えていたものがつい口に出てしまいますね。忘れっぽくなっているはずですが



変ですね。まあ頑張りましょう。今月の終わり 1 月 31 日にはサレジオ修道会の創立者聖ドン・ボスコの記念の日があります。若者たちのために一層活動できるようにお祈りください。また、14 日(土)午後には「オラトリオ足立」があります。教会のホールや幼稚園の園庭を開放して、子どもたちが安全に、有意義に過ごせるようにしたいと思います。まだまだ始まったばかりですがお祈りください。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光